

あとがき

昨今の国家的改革の嵐は医学教育や卒後研修医制度ばかりではなく、医療制度本体にも巻き起こっている。確かに、改革は進歩に不可欠ではあるが、改革が改正となるかどうかは別問題である。例えば、この4月からの診療報酬、介護報酬改定も、本来あるべき医療の原点からかけ離れ、経済優先の視点から出発している。しかし、このような劣悪な医療環境の中にあっても医師は国民にとって最もよい医療とは何かを常に追求していかねばならない。特に、本学では医療訴訟問題の嵐も吹荒れ、我々はこれを真摯に受け止めて、安全で良質かつ高度の医療を提供していく責務がある。このような嵐の中で、「東

京医学専門学校開校をめぐる群像」が本誌に掲載された。これは「奮闘の半年」を読まれた生化学講座教授友田燁夫先生が、本学創設と森鷗外との係わりに疑問を抱き、当時の記録を詳細に調査、解説したもので、先達の熱意と結束の固さにはあらためて感服する。奮闘は1916年5月の総退学前後からの半年であるが、かくして1918年4月13日に第1回入学式が挙行された。今、本学がこの嵐を乗り切るのに必要なのは、この若き熱意と結束の固さではないであろうか。今年創立90周年、節目の年でもあり、是非、心新たに読まれたし。

(岩本俊彦 記)

幹事会 (要旨) (平成18年3月)

報告事項

1. 庶務報告

1) 総会報告

- ① 第157回 平成18年6月3日(土)
当番教室：法医学講座、救急医学講座
特別講演：重松 宏 主任教授(外科学第二講座)
(演題)：いわゆる炎症性腹部大動脈瘤の診断と治療
一般演題：ポスター発表(一般・大学院生・専攻生・研究生)
募集期間：平成18年2月1日～3月31日
- ② 第158回 平成18年11月4日(土) 開催予定
当番教室：病理診断学講座、医療情報学講座
シンポジウム：未定
一般演題：ポスター発表(大学院生・専攻生・研究生)
募集期間：平成18年7月1日～8月31日予定

2. 編集報告

- 1) 64巻2号：3月下旬発行予定(再校印刷中)
- 2) 64巻3号：初校印刷中
- 3) 64巻4号：投稿募集中
- 4) 64巻5号：投稿募集中
- 5) 64巻6号：投稿募集中
- 6) 巻頭言：64巻2号～64巻6号

- 7) 編集状況報告：64巻2号～64巻6号
3. 臨床懇話会報告
 - 1) 開催報告
第358回(H18. 2.27) 臨床検査医学講座 西田恭治 講師
 - 2) 開催予定
第359回(H18. 3.16) 霞ヶ浦・循環器内科 大久保信司 教授
第360回(H18. 4.28) 産科婦人科学講座 柳下正人 講師
第361回(H18. 5.未定) 放射線医学講座(依頼中)
第362回(H18. 6.未定) 麻酔科学講座(依頼中)
第363回(H18. 7.未定) 八王子・診療科(依頼中)

審議事項

1. 平成18・19年度医学会評議員および幹事会役員・委員について、医学会会則第3章および医学会施行細則第1章第1条により選出され承認された。
2. 平成17年度収支決算書(見込額)・貸借対照表および平成18年度予算(案)について会計幹事より説明があり、審議した結果承認された。
3. Embase等の文献データベース取載用として、エルセビアジャパン(株)への東医大誌の寄贈が承認された。

医学会

伊東洋(会長)	大久保ゆかり(〃)
下光輝一(副会長)	大滝純司(〃)
加藤治文(副会長)	小田原雅人(〃)
阿西部彦(副会長)	勝村俊仁(〃)
小西眞人(庶務幹事)	金子清俊(〃)
青木達哉(〃)	鈴木衛(〃)
水口純一郎(編集委員長)	田淵崇文(〃)
大屋敷一馬(編集幹事)	長尾桓(〃)
J. P. バロン(〃)	新妻知行(〃)
伊藤正裕(会計幹事)	原岡襄(〃)
山本謙吾(〃)	松宮輝彦(〃)
遠藤任彦(監事)	三木保(〃)
友田燁夫(〃)	森安史典(〃)
荒井貞夫(委員)	山科章(〃)
岩本俊彦(〃)	ブルーヘルマンズ ラウル(〃)

編集委員会

青木達哉	J. P. バロン
岩本俊彦	鈴木衛
大滝純司	友田燁夫
大屋敷一馬	三木保
小田原雅人	水口純一郎
勝村俊仁	森安史典
小西眞人	山本謙吾

平成18年5月20日 印刷
平成18年5月25日 発行
東京医科大学雑誌 第64巻 第3号
発行者 伊東洋
発行所 東京医科大学医学会
(東京医科大学内)
〒160-8402
東京都新宿区新宿6-1-1
TEL 03(3351)6141(代)
FAX 03(3226)7030
e-mail address
igakukai@tokyo-med.ac.jp
印刷所 笹氣出版印刷株式会社
〒984-0011
仙台市若林区六丁の目西町8-45
TEL 022(288)5555

当該雑誌に掲載された論文の著作権は本医学会に帰属する。
また本書の無断複写(コピー)は著作権法上での例外を除き禁じられている。